



行政視察報告書

平成 31 年 2 月 8 日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員 藤井 義明  議員 
 議員  議員 
 議員  議員 

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

【1】 福井県 敦賀市

住 所	福井県敦賀市中央町2丁目1番1号
電 話	0770-22-8157
視察案件	学力向上の取り組みについて
期 日	平成 31 年 1 月 28 日 (月) 13 時 30 分 から 15 時 00 分 まで
応 対 者	(議会事務局) 和泉議長 林係長 (担当課) 戸羽・長谷川・竹田指導主事
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	議会事務局
概 要	<p>視察の目的</p> <p>学力向上の取り組みについて</p> <p>福井県は、全国学力・学習状況調査では、常に全国で上位から5指に入る状況である。中でも敦賀市は上位に位置している現状がある。</p> <p>笠岡市に於いては、学力向上、中一ギャップの解消などを目指し、小中一貫教育の推進を模索、就学前の教育との連携など問題が山積みであり、今後の笠岡市に於ける、学力向上、中一ギャップ解消等のための、小中一貫教育、幼保一体化を進めるうえでの進め方、考え方等、方策の考察のため。</p>

	<p>敦賀市の現状</p> <p>福井県は「福井方8年教育」「ていねいな教育」「きたえる教育」を推進し、県・市・学校が連携し、中学校区ごとの全市的な小中一貫教育を行っている。そして、県独自の少人数教育を行っている。</p> <p>敦賀市では、未来を担う敦賀の子供を、家庭・学校・地域の手で育てるという、敦賀市独自の「知・徳・体」充実プランを作成、知とは勉強して考える力、徳とは内面を豊かにする力、体とはたくましく生きる力を育て、その中心に人と協働する力を育てるとしている。</p> <p>幼児教育と小学校教育の連携・接続、小小連携教育、小中一貫教育と生まれてから義務教育終了までを連続した教育をおこない、子供たち一人一人の可能性と得意を伸ばす、一人の個性が生きるために、家庭・学校・地域で連携し支えている。</p> <p>0歳から5歳までは、保幼小接続カリキュラム、小学校1・2年はスタートカリキュラム、小学校3年から中学校までは、小中一貫カリキュラムが作成されている。中でも外国語教育、ふるさと学習、道徳教育等特に力を入れている。学力向上のため、より確かな子供の実態把握と授業改善のため、全国学力学習状況調査(小6・中3)だけでなく、市総合学力調査(小5・中2)を行って、中学校区ごとの小中一貫研修会に組み込み、弱点を克服するため補強を行い、強みの伸張を共有し共通実践している。2学期制を導入していて、授業時間の増加、教職員の働き方改革につながり、子供たちの意識が変わる効果が認められている。</p> <p>幼児教育と小学校教育の連携接続では、敦賀市では、保幼小連携推進会議を年間3回開催し、また研修会の実施、学校区の取り組みについての発表等行って連携を図っている。</p> <p>視察を終えて</p> <p>福井県と岡山県の施策の違いが大きく関わっている。福井県では県が小中一貫教育を推進し、子ども園化も進んでいて、連携教育を進めることが容易と感じた。教職員は県の教育委員会で配置が決まり、岡山県のように各市の進め方が違う場合、小中一貫教育は難しいと感じた。また福井大学では、教員一人一人が小中高の教員免許を取得できる状況もあり、小中高の教員交流も容易に可能という。その点も大いに関係していると思う。</p> <p>笠岡市が進める、連携型小中一貫校(小中一貫教育)でも可能と感ずるが、地形・教職員・教職員組合等の岡山県の状況を鑑みると、多くの時間が必要と感じた。子供たちの教育向上を純粋に考えて小中一貫教育を進めても難しい中、定住促進のための小中一貫校づくりは、いかなるものかと考える。また県と協力・連携して進めることが重要と考える。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

【2】 福井県 鯖江市

住 所	福井県鯖江市西山町13番1号
電 話	0778-51-2200
視察案件	市民主役のまちづくりについて
期 日	平成 31年 1月 29日(火) 10時00分 から 11時50分 まで
応 対 者	(議会事務局) 佐々木議長 熊野主任 (担当課) 宮田課長

視察状況	別紙写真のとおり (館林市議会と同席による視察)
訪問施設	議会事務局
概 要	視察の目的
	<p>笠岡市では、街づくり協議会を24地区に作り、街づくりを進めている。各地区それぞれいろいろな形で進めていて、活動が進んでいるところと、そうでないところの格差が生じてきている。公民館（生涯学習）との関係、施設利用の関係と未だ解決していない状況がある。鯖江市の市民が主役のまちづくりの状況、進め方等を考察する為。</p>
	鯖江市の現状
	<p>鯖江市では、今後の自治体経営の持続可能なポイントは、市政や街づくりに無関心であった市民層を開拓し、具体的にまちづくりの活動に巻き込んでいくことが重要と、「鯖江市市民活動によるまちづくり推進条例」（平成15年8月制定）「鯖江市民主役条例」（平成22年3月制定）を市民提案から創り上げ、早い時期から「市民主役」「市民協働」のまちづくりを進めてきた。市民が単なる顧客にとどまるのではなく、まちづくりの主役となることを通じ、全員参加型のまちづくりを目指してきた。「鯖江市民主役条例」が制定され、その後条例を推進する市民組織「市民主役条例推進委員会」からの提案により、①市民が市の事業に自ら参画する「提案型市民主役事業化制度」（H23～）②市民との話し合いによって市の事業の中身を検討実施していく「事前ミーティング型市民主役事業化制度」（H24～）③地域コミュニティ向けの人材養成講座「市民まちづくり応援団事業」（H24～）の3事業を制度化、活動の輪を広げてきた。平成26年度から高校生、特に女子を対象にまちづくりチームを結成、自らが企画した地域活動を実践することを通じ、若者・女性が進んで行政参加を図っていく新たなモデル都市となることを目指し、④「鯖江市役所JK課」事業（女子高校生）に挑戦した。それぞれの活動を通じ、より幅広い市民が進んでまちづくりに取り組む姿が見られるようになった。提案型市民主役事業化制度は、年々伸び続けH31年度では、48事業を実施予定。市民まちづくり応援団養成講座の修了生が、自らが住む地域住民を巻き込みながら地域オリジナルな事業に取り組み始めた。そして40～50代を中心とした女性たちが「鯖江市OC課（おばちゃん課）」を立ち上げるなど、市民間に「私たちも何かできる」「私たちの提案でまちが変えある」という機運が広がっている。</p>
視察を終えて	
	<p>まちづくり活動を始める時点から、笠岡市と違う点が多くみられた。笠岡市では行政が組織づくりを促し進めてきたが、鯖江市ではそれぞれ住民からの提案であった。笠岡市では公民館をまちづくりが事務所として使うことはできないが、鯖江市ではまちづくり（区長会・町内会）が主体となって事業を行ってきている。公民館コミュニティセンターなどと名称を変えることもなく進めてきていて、問題もないとのことであった。あまり行政が口を出さず、市民ができることはないか、積極的に市民に任せているように感じた。職員の8割が鯖江市民で参加を通じ「共通の目的、夢」を市民と共有していると感じた。またJK課の立ち上げによって、多世代への波及効果は絶大で、笠岡での若者会議がそのようになればと感じた。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

【3】 福井県 あわら市

住 所	福井県あわら市市姫三丁目1番1号
電 話	0776-73-8045
視察案件	小・中学生の学力向上の取り組みについて
期 日	平成 31年 1月 30日 (水) 9時45分 から11時00分 まで
応 対 者	(議会事務局) 森議長 山口事務局長 (担当課) 荒川教育審議官 (参事)
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	議会事務局
概 要	<p>視察の目的</p> <p>福井県は、全国学力・学習状況調査では、常に全国で上位から5指に入る状況である。福井県は全国学力テストでは平成30年では、中3の数学・理科は1位であり11年連続上位を維持しているとのことである。あわら市による独自の方策があり、他の地域との違いがみられる。</p> <p>笠岡市に於いては、学力向上、中一ギャップの解消などを目指し、小中一貫教育の推進を模索、就学前の教育との連携など問題が山積みであり、今後の笠岡市に於ける、学力向上、中一ギャップ解消等のための、小中一貫教育、幼保一体化を進めるうえでの進め方、考え方等、方策の考察のため。</p>
	<p>あわら市の現状</p> <p>福井県では県内全市どこでも、学力向上に目家、保幼小連携・小中一貫教育を進めている状況である。あわら市も例外ではなく、保幼小・小中の連携教育を進めている。</p> <p>温泉地であるゆえに、生徒に問題があることが多くみられ、市独自の取り組みを行っている。子供と向き合う丁寧な授業支援のため、市費による支援員等(27名)の配置を行って不登校の減少に寄与している。さらには学校運営支援委員6名、中学校(2校)に部活動支援員2名、地域スポーツ支援員8名を配置など丁寧な授業を支援している。</p> <p>敦賀市と同様に2学期制であり、福井県立金津高校との中高連携教育を行っている。</p> <p>あわら市では福井県学力調査(小5・中2)を実施し、またあわら市学力テスト(小2～小5)を平成23年度から実施している。市独自のテストにより実態把握を行い、教育委員会では研究主任会研修会を開催し、結果の分析と改善プランを共有し、学力向上を進めている。</p>
	<p>視察を終えて</p> <p>自然体がチームとなり、授業にとりくんでいる、やらせ感を生ませない指導、見通しを持った計画的な指導を行っている。教諭が共通の価値観を持った指導を行っている。このことが、学力向上につながると感じた。福井型がすべて良いとは思わないが、笠岡市においても、国・県・市が一体となって幼保小中一貫教育を進めることが重要であり、形にこだわることなく保幼小中学校が連携し進めれば、学力向上は可能と考える。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

